



令和5年9月14日

登米市病院事業管理者
松本宏様

登米市立病院等運営協議会
会長 小野寺良雄



登米市病院事業中長期計画（第4次病院改革プラン）
令和4年度業務実績に関する評価結果について

登米市立病院等運営協議会において、登米市病院事業中長期計画の令和4年度業務実績について評価を行ったところ、別添のとおりの結果となりましたので、別紙総括意見を付して報告いたします。



(別紙)

令和4年度の事業実績について、登米市病院事業中長期計画の所定の内容に基づいて評価を行い、その結果は別添報告書のとおりとなりますが、報告書を提出するにあたり、外部評価での意見及び委員からの総合的な意見を総括し、一言申し添えます。

令和4年度においては、3病院において院内クラスターが発生するなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた厳しい状況となりましたが、目標達成に向けた各種取組の成果が数字となって現れており、全体として概ね目標を達成していると評価しました。

特に、令和3年度決算に続き経常損益、純損益ともに黒字となったことについては、3病院の機能分化と連携、救急患者の積極的な受入れなどの取組が経営改善に結びつき、成果となって現れたものと高く評価するものです。

しかし、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことで、補助金等も含め今後の収益の確保が大きな課題となってまいります。

今後、地域開業医及び近隣の高次医療機関との更なる連携強化・機能分担を図りながら、医業収益向上に向けた取組を進めていただきたいと思います。

また、登米市は、医療及び介護の現場における担い手不足や増え続ける高齢世帯での在宅介護力の低下などの問題も抱えており、医療と介護、福祉の連携による地域包括ケアシステム体制の充実も図っていく必要があると考えます。

このほか、人口減少等に伴う医療需要の変化や患者数の減少等により、病院経営は年々厳しさを増しておりますが、職員一丸となって経営基盤強化のための取組を進め、自治体病院としての役割である地域に必要な安定した医療の提供に努められるよう期待しています。

登米市病院事業中長期計画(第4次病院改革プラン)
令和4年度の業務実績に関する評価結果

令和5年9月

登米市立病院等運営協議会

目 次

第1	令和4年度業務実績に関する評価方法について	1
第2	総合評価結果について	3
I	登米市病院事業中長期計画に掲げた医療機能などの指標	5
II	登米市病院事業中長期計画に掲げた数値目標	19
第3	令和4年度登米市病院事業業務実績への総合的な意見	41

【別添資料】

- ・登米市病院事業中長期計画に係る外部評価実施要領
- ・登米市立病院等運営協議会委員名簿

第1 令和4年度業務実績に関する評価方法について

登米市立病院等運営協議会（以下、「協議会」という。）は、登米市病院事業（以下、「病院事業」という。）が登米市病院事業中長期計画（平成28年11月策定）に掲げた「医療機能などの指標」並びに「数値目標」の令和4年度業務実績について、以下のとおり評価を行った。

【評価の目的】

地域において必要とされる医療の確保を図る上で、登米市病院事業に求められる役割を果たしているか否かといった観点に立ちながら、登米市病院事業中長期計画がどの程度進捗しているのか、目標が達成できなかった場合の原因は何か、今後の改革をどう進めるべきか等について病院事業内部の評価を聴取し、その妥当性を検証し、意見を述べることを目的とした。

【評価方法】

評価を行うにあたり、病院事業から提出された「登米市病院事業中長期計画評価シート」を基に、病院事業が行った評価を踏まえつつ、協議会委員が個別に評価を行い、その上で、協議会の総意を取りまとめる形で最終評価を行った。

【評価基準】

●医療機能などの指標

①目標に対する評価（目標に対する実績を達成率によって評価する）

「A」当該年度の目標に対する達成率が100%を超えている

「B」当該年度の目標に対する達成率が85%以上100%以下である

「C」当該年度の目標に対する達成率が85%未満である

②取組に対する評価（目標達成に向けて取り組んだ内容等について評価する）

「A」目標達成に向けて十分に取り組まれている

「B」目標達成に向けて取り組まれている

「C」目標達成に向けた取組が不十分である

《総合評価》（①と②を基に総合的に評価する）

「A」目標を達成しており、成果に結びついている

「B」概ね目標を達成しており、一定の成果を得ている

「C」目標が未達成であり、一層の努力が必要である

●数値目標

①目標に対する評価（目標に対する実績を達成率によって評価する）

- 「A」当該年度の目標に対する達成率が100%を超えている
- 「B」当該年度の目標に対する達成率が85%以上100%以下である
- 「C」当該年度の目標に対する達成率が85%未満である

《総合評価》（①と分析を基に総合的に評価する）

- 「A」目標以上の成果があった
- 「B」概ね目標どおりの成果があった
- 「C」成果を上げることができなかった

協議会の総合評価内容は次のとおりである。

令和5年9月
登米市立病院等運営協議会
会長 小野寺 良 雄

第2 総合評価結果について

項目別評価については、下記3段階の判定基準により、登米市病院事業中長期計画に掲げた【医療機能などの指標】7項目、【数値目標】11項目の総合評価を行った。

●登米市病院事業中長期計画に掲げた医療機能などの指標

【評価基準別】

評 価 基 準	評価結果数
「A」 目標を達成しており、成果に結びついている	1
「B」 概ね目標を達成しており、一定の成果を得ている	3
「C」 目標が未達成であり、一層の努力が必要である	3
合 計	7

【医療機能などの指標別】

No.	目標達成指標名	総合評価結果
1	救急受入（搬送）件数	A
2	手術件数	B
3	リハビリテーション単位数	C
4	内視鏡検査件数	C
5	紹介率・逆紹介率 ア 紹介率の状況	B
6	紹介率・逆紹介率 イ 逆紹介率の状況	B
7	初期研修医の受入件数	C

●登米市病院事業中長期計画に掲げた数値目標

【評価基準別】

評 価 基 準	評価結果数
「A」目標以上の成果があった	4
「B」概ね目標どおりの成果があった	5
「C」成果を上げることができなかった	2
合 計	11

【収支計画と数値目標別】

No.	目標達成指標名	総合評価結果
1	病床稼働率	C
2	1日平均患者数 ア 入院	C
3	1日平均患者数 イ 外来	B
4	平均診療単価 ア 入院	A
5	平均診療単価 イ 外来	A
6	平均在院日数（急性期一般病床のみ）	B
7	経常収支比率	A
8	医業収支比率	B
9	職員給与費対医業収益比率	B
10	材料費対医業収益比率	B
11	後発医薬品の使用割合	A

I 登米市病院事業中長期計画に掲げた医療機能などの指標

※登米市病院事業中長期計画書 P 28～30

1 救急受入（搬送）件数

●目標に対する評価

(単位：件)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	1,700	1,775	1,850	1,925	2,000	110.6	A
	1,619	1,511	1,706	1,964	-	-	-		
米谷病院	-	-	135	120	105	90	75	87.5	B
	152	117	135	105	-	-	-		
豊里病院	-	-	180	160	140	120	100	85.6	B
	202	164	153	137	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果
受入れ拒否の事例検証	令和4年度の救急搬送に係るデータ提供を市消防本部に依頼し、結果について検証する。	救急搬送に係るデータの提供により、疾病分類等の詳細な検証を行うことができた。
受入拒否事由に対する対応	検証した結果を関係部門へフィードバックする。	検証結果を会議等でフィードバックした。救急搬送データは関係部門において情報共有が図られた。
救急搬送受入れに係る意見交換会の実施	市民病院と市消防本部が抱えている救急搬送について、課題及び改善策等の意見交換を行う。	これまで課題として捉えていたことや改善点について話し合い、よりスムーズな救急搬送の受入れに繋げることができた。
		評価
		A

【総合評価結果】

『 A 』

【評価理由】

市民病院は可能な限り救急患者を断らない姿勢を維持することで、目標値を大きく上回り、受入れ件数も前年度と比較して増加している。米谷病院、豊里病院については新型コロナウイルス感染症の院内感染により、救急搬送受入れの制限を行ったことなどが影響し、目標を達成することができなかったが、全体としては3病院の合計目標値を上回ることができた。今後も、受入れ拒否の事例検証や市消防本部との意見交換会等を通して目標値の達成が期待できることから、総合評価を『A』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・各病院の数値目標の算出根拠が不明確なので何とも言えないが、市民病院に受入れを進めて機能強化を図るものと受けとめる。米谷病院と豊里病院の受入れ件数は少なくなることは理解できるが、市民病院の受入れ能力が今後も増えていく場合、その根拠となる病床やマンパワーの余力、今後の強化の見通しを示してほしい。
- ・市民病院に偏っている状態で、地域住民の安心が担保できているとは言えない。他院の受入れ拒否事由に対する対応を具体化してほしい。
- ・この指標は病院間の機能分担も目標にしているようなので、市民病院以外の病院で受入件数が下がったことで、目標達成できなかったと見るべきなのか。むしろ前倒して目標を達成し、全体で上向いているのが望ましいと思う。市民病院は2,000件まであと一息なので頑張ってもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の院内感染等により目標は達成できなかったが、5類になったことにより、今年度は達成できるように努力してほしい。
- ・市民病院は中核病院として、病院長のリーダーシップにより、原則として救急患者を断らないという姿勢を堅持し、目標を上回る結果を高く評価する。
- ・米谷病院、豊里病院は目標を下回っているが、3病院総合的に評価した。
- ・登米市民にとって救急搬送を市民病院で断られると遠方に行くしかなく、命に関わるので今後も断らない姿勢で積極的な受入れや診察をお願いします。
- ・目標値を上回ったのは、客観的数値でも評価できるが、救急患者の受入れを断らない姿勢は大いに評価できる。一方で、受入拒否事由とは受入れ不可能な事由もあったと考えて良いのか。拒否となるとニュアンスが違ってくると思う。
- ・米谷病院、豊里病院で目標は達成できなかったが、引き続き、慢性期・回復期を担う医療機関として市民病院と連携し、対象者の積極的な受入れを行うようお願いする。
- ・受入れ拒否事案の事例検証や消防本部との意見交換会等の取組を継続し、救急搬送の情報共有等を図り、スムーズな救急搬送の受入れに努めてほしい。

2 手術件数

●目標に対する評価

(単位：件)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	605	620	635	650	665	90.5	B
	604	643	663	561	-	-	-		
外科	-	-	305	320	335	350	365	98.8	B
	303	308	378	316	-	-	-		
整形外科等	-	-	300	300	300	300	300	81.7	C
	301	335	285	245	-	-	-		
豊里病院	-	-	35	35	35	35	35	28.6	C
	36	54	32	10	-	-	-		
外科	-	-	20	20	20	20	20	25.0	C
	18	26	15	5	-	-	-		
内科	-	-	15	15	15	15	15	33.3	C
	18	28	17	5	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果
市内開業医からの患者紹介による手術件数の増加	医療連携室において病院紹介のパンフレットを作成し、市内開業医への挨拶回りを行う。	関係医療機関訪問を行い、診療科の特色や得意分野及び医療機器の最新情報等を周知することができた。
		評価
		B

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

市民病院の整形外科では、医師の異動による診療体制の変更が影響し目標を達成することができず、豊里病院では、外科において手術が必要な紹介患者が少なかったことや、内科において常勤医師が退職を控えていたことなどが影響し、目標値を下回っている。

手術件数を増やすためには市内開業医との連携が重要であり、積極的に市内医療機関訪問を行い、更なる手術件数の増加に繋がることを期待し、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・豊里病院は患者リクルートに関する更なる具体的な対策（常勤医の増員や市民病院からの医師派遣等）を行う必要がある。
- ・目標値が単なる数値上の上乗せ的印象で、算出根拠が乏しい印象がある。それぞれの病院では大変な努力のもとに取り組んでいると思うが、その数値が現状で目一杯であれば、今後の目標は絵に描いた餅になってしまう。
- ・市民病院の手術件数に余力があるのなら、豊里病院の手術を市民病院で行うことも一考かと思う。
- ・手術に関しては患者や家族の意向もあるため、件数を大幅に増やすことは難しいと考える。やはり地道なアピールは必要と思われるが、これまで通りの方向性ではギリ貧状態と感じる。
- ・令和4年度は思わぬ阻害要因があり件数が伸びなかったのはやむを得ないと考える。
- ・医師招聘に力を入れ、登米市の頼りになる病院を目指しつつ、件数を増やしてほしい。
- ・市民病院、豊里病院ともに手術数が減っているのも、更なる市内医療関係機関、他地域の医療関係機関との連携により手術数を増やしてもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の対応や医師不足により大変苦慮したことと思う。市内の開業医との連携や信頼関係構築等に努めてもらいたい。
- ・常勤医師の診療体制が整わないことと、新型コロナウイルス感染症の発災はやむを得ない事情と考えられる。原因が明確な分、課題分析結果に対する改善策を時期へ向けて期待したい。
- ・市民病院の外科手術については、新型コロナウイルス感染症の院内感染の影響により、目標にわずかに届かなかったが、今後も、市内開業医への積極的な訪問等による紹介患者の増加に努めてもらいたい。
- ・整形外科は医師の異動の影響によるもので、やむを得ないと認められるが、診療体制の維持に向け、大学等への積極的な働きかけをお願いします。
- ・豊里病院は地域患者の動向等を把握し、対応できる患者の紹介増加に、引き続き努めてもらいたい。

3 リハビリテーション単位数

●目標に対する評価

(単位：単位)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	92,900	92,900	92,900	92,900	92,900	80.7	C
	81,888	79,793	81,192	75,009	-	-	-		
米谷病院	-	-	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200	73.3	C
	7,224	7,341	6,329	5,277	-	-	-		
豊里病院	-	-	6,700	6,700	6,700	6,700	6,700	82.2	C
	6,702	6,869	6,127	5,510	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果	
他院からの紹介患者の増加及び院内転棟患者数の増加	近隣の急性期病院を訪問し、患者紹介を依頼するほか、病棟回診を行い、その結果をもとに転棟転科を主治医へ打診する。	回復期リハビリテーション病棟が新型コロナウイルス感染症患者の対応病床へ転換となり、ほとんど稼働できなかつたため、訪問を見送ったが、一時的に回復期リハビリテーション病棟が再開した際は、転棟転科を主治医へ打診の上、リハビリを実施することができた。	
新患担当の効率的な割振	患者の状態に応じて優先度を付け、各部門の主任がシステムを用いて担当者の単位数を把握し、効率的な振り分けを行う。	可能な限りリハビリに介入できるように、単位取得のための振り分けに努めた。	
提供単位数の維持 (米谷病院・豊里病院)	患者の体調を観察しながら複数回介入し、効率的な単位取得を目指す。また、地域包括ケア病棟の患者は施設基準の平均2単位を提供する体制を維持する。	米谷・豊里病院ともに新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが度々発生し、単位数は伸び悩んだものの、地域包括ケア病棟の施設基準である平均2単位は達成することができた。	
		評価	C

【総合評価結果】

『 C 』

【評価理由】

市民病院では回復期リハビリテーション病棟を新型コロナウイルス感染症患者の対応病床に転換したことにより大幅な単位減となったほか、院内感染が複数回発生したため、安定した単位取得ができなかった。米谷・豊里病院においても同様に院内感染が発生し、安定した単位取得ができなかったことから、総合評価を『C』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・新型コロナウイルスの影響が大きいと思われるが、その影響で減少した数値を具体的に示さないと判断できない。病院にとって必要不可欠な機能なので、その取組を評価するとともに今後期待する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことは否めない。脱コロナに向けた取組をアピールしてほしい。
- ・病棟転換や院内感染の影響で目標を大きく下回ったことはやむを得ないと思う。回復期リハビリテーション病棟は貴重な医療資源なので、令和5年度の再開と安定した稼働に期待したい。
- ・この状況では今回の数値に対して判断しにくいですが、今後も新種のウイルスが発生しないとも言い切れないので、今回の状況をもとに改善方法を出してほしい。
- ・回復期リハビリテーション病棟を、新型コロナウイルス感染症患者の対応病床として運用したことに加え、一般病棟のクラスター発生等もあり、目標値が達成できなかったことはやむを得ないと認められる。
- ・地域唯一の回復期リハビリテーション病棟の強みを最大限活用するために、近隣の高度急性期病院を訪問し、患者の確保に努めてほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症に対応した結果と思う。高齢者もリハビリによりその後の生活は大きく変わることから、今後も市民病院の強みとなるようリハビリの機能強化をお願いしたい。
- ・回復期リハビリテーション病棟を時期の情勢に鑑み、新型コロナウイルス感染症患者の対応病床へ転換したので、客観的指標は別として、転換によって身近な病院で入院加療できたことは、住民にとって大きな安心感に繋がり、大いに評価できると考える。
- ・今後は、近隣の急性期病院を訪問し、紹介患者の増加に努めるとともに、自院の入院患者については、病状等を的確に把握し、積極的な転棟転科を推進するなど、リハビリテーション単位の増加を図るようお願いしたい。

4 内視鏡検査件数

●目標に対する評価

(単位：件)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	2,210	2,230	2,280	2,300	2,320	83.3	C
	2,044	2,021	1,895	1,858	-	-	-		
上部	-	-	970	970	1,000	1,000	1,000	89.2	B
	880	862	921	865	-	-	-		
下部	-	-	1,240	1,260	1,280	1,300	1,320	78.8	C
	1,164	1,159	974	993	-	-	-		
米谷病院	-	-	380	380	380	380	380	71.6	C
	378	318	273	272	-	-	-		
上部	-	-	290	290	290	290	290	75.9	C
	287	251	228	220	-	-	-		
下部	-	-	90	90	90	90	90	57.8	C
	91	67	45	52	-	-	-		
豊里病院	-	-	250	250	250	250	250	60.8	C
	247	200	194	152	-	-	-		
上部	-	-	210	210	210	210	210	66.2	C
	210	176	169	139	-	-	-		
下部	-	-	40	40	40	40	40	32.5	C
	37	24	25	13	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果
大腸がん二次検診の受入れ増加	地区説明会において予約の受付を実施する。	9地区において12回の説明会を実施した。
二次検診率増加に向けた検診体制の検討	内視鏡検査件数を増やすための医師・看護師等を確保する方策を立てる。	大腸がん二次検診の常勤医師及び応援医師での体制検証を行ったが、検診体制の拡充は厳しく、現状維持にとどまった。
		評価
		C

【総合評価結果】

『 C 』

【評価理由】

医師の減少による検査体制の縮小や、新型コロナウイルス感染症の院内感染の影響等もあり、3病院すべてにおいて目標を達成することができなかった。大腸がん検診の二次検診については、今後、市の関係部局と連携するなど受検率向上に努めてほしいことから、総合評価を『C』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・昨年度と同様の目標件数を目指しているが、医師増員の具体策や米谷病院や豊里病院への応援医師の派遣等の対応策がない。
- ・今後の体制強化による検査件数、受診率向上に期待する。
- ・開業医で定期的に行っている患者が一定数いるが、各病院ではどのような状況なのだろうか。二次検診の受入れのみでは行動目標としては弱いと感じる。
- ・超高齢社会になり、健康長寿を望む人は多いはず。利用しやすい人間ドックの体制整備を行い、広くPRしてはどうか。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応や医師不足、医師が来たいと思う病院づくり、環境づくりなど病院関係者の努力も分かるが、市民団体の協力も使ってはどうか。
- ・他地域へ人間ドックや検診に行っている人は結構いると思うので、内視鏡検査以外の検査も増やしながらか人間ドック等の受入れとともに取り組んでもらいたい。
- ・医師の減少、新型コロナウイルス感染症の院内感染の影響により3病院ともに、目標を下回っている。
- ・今後の取組として、大腸がん検診の二次検診については高齢化の進展等を考慮して市担当部局と連携し、未受検者の受診率向上に努めてほしい。
- ・市民病院での検診増加となるよう住民向けのPR等、工夫が必要と思う。
- ・下部の検査が増えたとの報告があるが、背景を知ることによって今後の運営のヒントがあると思う。
- ・市民病院は、医師の減少による実施体制の縮小で目標値を下回っているが、大腸がんの二次検診の受験者数が前年度よりも増加するなど、地区説明会の実施等の取組による成果も認められる。
- ・検査件数の増加は、経営改善の必要な項目であり、令和5年度からの消化器内科医師の増員による検査件数の増加に向け、開業医からの紹介増加や、市の健康担当部局との連携強化による未受診者の受診率の向上等に努めてもらいたい。

5 紹介率・逆紹介率 ア 紹介率の状況

●目標に対する評価

施設		目標（上段）							達成率 （%）	評価
		実績（下段）								
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	紹介率 （%）	-	-	32	34	36	38	40	88.2	B
		27	27	32	30	-	-	-		
登米市民病院	文書紹介 患者数（人）	-	-	3,300	3,500	3,700	3,900	4,100	95.7	B
		3,092	3,177	3,618	3,350	-	-	-		
米谷病院	紹介率 （%）	-	-	26	26	26	26	26	53.8	C
		24	25	23	14	-	-	-		
米谷病院	文書紹介 患者数（人）	-	-	495	500	505	510	515	86.4	B
		535	499	539	432	-	-	-		
豊里病院	紹介率 （%）	-	-	9	9	9	9	9	88.9	B
		12	11	8	8	-	-	-		
豊里病院	文書紹介 患者数（人）	-	-	310	325	340	355	370	59.1	C
		499	254	237	192	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果
病院紹介のパンフレット作成と関係医療機関への訪問（市民病院）	市内医療機関等へ作成したパンフレットの配布。	コロナ禍の影響によって訪問回数は不足したが、関係医療機関等へのパンフレット配布は郵送により対応した。
受入れを断らない体制の構築（市民・豊里病院）	断った事案が発生した際は検証を行う。	市民病院では医局、外来及び救急外来、豊里病院では医局及び看護部において検証を行った。
円滑な入院調整の構築と相談から入院までの期間の短縮（米谷・豊里病院）	受入れ期間の短縮（米谷病院）及びフローチャートの検討と作成。（豊里病院）	米谷病院は受入の用途を依頼元の関係機関等へ情報提供し期間短縮に努めた。豊里病院は、各部門との連携体制により受入れ期間の短縮はできたが、フローチャートの内容は検討中。
		評価
		B

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

新型コロナウイルス感染症の影響により、関係医療機関への直接訪問は十分にできなかったが、市民病院においては関係医療機関へ病院紹介パンフレットを送付し、信頼関係の構築に努めている。今後は、関係医療機関への積極的な訪問の再開と病院紹介パンフレットの活用により、関係医療機関との顔の見える関係構築と受入れを断らない体制の強化に努めてほしいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・米谷病院での紹介率をアップさせるための具体策がない。
- ・連携不足（新型コロナウイルス感染症やマンパワー不足が影響している）。
- ・課題とされている「前方連携」の強化や医療連携の推進に期待する。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、改善されることを期待する。
- ・市民病院と豊里病院が目標値9割、米谷病院は5割の達成度だった。
- ・入院患者の相談から入院までの短縮、受入れを断らない体制強化によって信頼関係の構築に努めてほしい。
- ・病院紹介パンフレットを活用し、地域医療機関との顔の見える連携づくりに努めてほしい。
- ・手術等の高度医療の紹介は難しいと思うが、リハビリや検査等の紹介はもう少し見込めると思う。
- ・市内だけでなく市外医療機関との連携を更に図るようになれば、紹介率の向上に繋がる可能性があると思う。
- ・コロナ禍において思うように取り組めなかったことと思う。今後も市内医療機関との連携やネットワークづくりに努めてもらいたい。
- ・今後はコロナ禍により、不足していた連携医療機関等への訪問活動を積極的に行うとともに、前方連携を行う体制の構築に向け、引き続き検討してもらいたい。
- ・米谷病院及び豊里病院については、介護施設等の情報把握を行うとともに、積極的な訪問による紹介患者増に努めてもらいたい。

6 紹介率・逆紹介率 イ 逆紹介率の状況

●目標に対する評価

施設		目標（上段）							達成率 （%）	評価
		実績（下段）								
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	逆紹介率 （%）	-	-	25	26	27	29	30	73.1	C
		25	24	18	19	-	-	-		
登米市民病院	診療情報提 供患者数(人)	-	-	3,900	4,100	4,300	4,500	4,700	78.4	C
		3,930	3,592	3,019	3,213	-	-	-		
米谷病院	逆紹介率 （%）	-	-	14	14	15	15	15	64.3	C
		12	14	16	9	-	-	-		
米谷病院	診療情報提 供患者数(人)	-	-	345	350	355	360	365	97.7	B
		359	360	468	342	-	-	-		
豊里病院	逆紹介率 （%）	-	-	8	8	9	9	9	125.0	A
		8	9	9	10	-	-	-		
豊里病院	診療情報提 供患者数(人)	-	-	450	465	480	495	510	86.2	B
		440	327	409	401	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果
病院紹介のパンフレット作成と関係医療機関への訪問（市民病院）	市内医療機関等へ作成したパンフレットの配布。	コロナ禍の影響によって訪問回数は不足したが、関係医療機関等へのパンフレット配布は郵送により対応した。
社会資源の把握（米谷病院）	医療機関情報及び介護施設情報の更新を行う。	近隣の介護施設等に施設情報シートへの記載を依頼して取りまとめ、市内の施設情報を整理したほか、新規で開所した施設の情報を随時追加した。
市立病院間の連携強化（米谷病院）	市立病院間での転院受入れを行う。	空床情報等の共有により、円滑な転院受入れに繋がった。
		評価
		B

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

紹介率向上の取組同様に、関係医療機関や介護施設等への直接訪問が十分にできなかったが、症状の安定した患者が安心して地域で生活できるように、3病院間の積極的な転院受入れと関係医療機関等との連携強化を更に進めてほしいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・逆紹介率をアップさせるための具体策がない。
- ・病診連携の強化によるそれぞれの数値改善を期待する。
- ・連携不足（新型コロナウイルス感染症やマンパワー不足が影響している）。
- ・課題とされている前方連携の強化や、医療連携の推進に期待する。
- ・地域の医療機関との連携値は高いようなので、今後の対応と取組に期待する。
- ・3病院の総合評価として目標を達成できていない。
- ・高齢化の進展により、症状の安定した患者が地域で安心して生活できる体制づくりのため、地域包括ケア病床の活用を期待する。
- ・相談から入院までのスムーズな対応や、医療機関や介護施設との連携や信頼関係構築に今後も努めてもらいたい。
- ・逆紹介がしやすい体制構築に向け、患者とかかりつけ医を繋ぐための資料等の提供等について、積極的な取組を行ってもらいたい。
- ・引き続き市民病院と米谷病院及び豊里病院との連携強化を図り、積極的な転院の受入れ体制の構築を図ってもらいたい。

7 初期研修医の受入件数

●目標に対する評価

(単位：人)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	-	3	6	6	6	0.0	C
	-	-	-	0	-	-	-		

●取組に対する評価

行動目標	取組内容	取組の成果
初期研修医の受入れ	ホームページの充実、研修医向け情報サイトの活用、病院パンフレット等の作成、病院見学の実施に取り組む。	病院情報のホームページや研修医の情報サイトへ掲載するなどの取組のほか、病院見学時には指導医が医学生を医療現場へ案内するなど、研修医の受入れに積極的に取り組んだことにより、令和5年度には3人の研修医を採用することができた。
		評価
		C

【総合評価結果】

『 C 』

【評価理由】

医師臨床研修採用試験に2人が受験し、そのうち1人とマッチング成立したことは市民病院の特色や魅力を積極的に情報発信するなどの取組の成果である。

令和4年度採用に至らなかったのは残念であるが、令和5年度には3人の研修医を採用することができたため、今後も市民病院の積極的な情報発信等の取組に期待し、総合評価を『C』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・研修体制の構築策がない。
- ・初期研修医の受入れはなかなか難しいと感じるが、今年度以降の継続した取組に期待するとともに、更なる強化を望む。
- ・令和5年度に3人の研修医を採用できたことは、これまでの努力の成果であり今後につなげてほしい。
- ・他の初期研修のできる病院と比べて、研修医が自分を成長できる病院と感じてもらえるような受験数を増やす工夫が必要。
- ・今後の取組として、病院見学に繋がるよう情報発信を行いながら、協力病院及び協力施設と連携し、体制づくりに取り組んでほしい。
- ・初期研修医への手厚い処遇と、研修医期間が終了した後に勤務医として残ってもらうための手厚い処遇をもう少し検討した方が良いと思う。
- ・充実した研修体制のPR等に引き続き取り組んでもらいたい。
- ・計画的な獲得に期待したい。
- ・基幹型臨床研修病院の指定後間もないこともあり、研修医の受入れは非常に困難な状況であったと理解する。
- ・今後も、ウェブサイトの活用と、充実した研修内容や病院の魅力、更には研修の独自性等のPRを強化することで、研修医の採用増加に努めてもらいたい。
- ・令和5年度採用となった研修医の獲得の経緯等を検証し、引き続き積極的な取組を行うよう期待する。

II 登米市病院事業中長期計画に掲げた数値目標

※登米市病院事業中長期計画書 P 33～37

1 病床稼働率

●目標に対する評価

(単位：%)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	86	89	89	89	89	80.9	C
	74	77	75	72	-	-	-		
登米市民病院	-	-	88	92	92	92	92	81.5	C
	76	79	78	75	-	-	-		
米谷病院	-	-	85	85	85	85	85	78.8	C
	72	75	70	67	-	-	-		
豊里病院	-	-	85	85	85	85	85	80.0	C
	72	75	74	68	-	-	-		

●分析

病院事業全体の病床稼働率は、前年度より3%減の72%で、目標値を下回った。

【市民病院】

整形外科医師が異動により、常勤3名から常勤2名・会計年度任用職員1名の体制となった影響や、8月と11月にコロナの院内感染が発生し、患者の受入れに制限が生じた影響等のほか、年間を通じて回復期リハビリテーション病棟（30床）を新型コロナウイルス感染症患者の対応病床とし、本来の運用ができなかったため、前年度より3%減の75%となり、目標値を下回った。

【米谷病院】

11月と3月にコロナの院内感染が発生し、患者の受入れに制限が生じた影響等で、前年度より3%減の67%となり、目標値を下回った。

【豊里病院】

12月にコロナの院内感染が発生し、患者の受入れに制限が生じた影響等で、前年度より6%減の68%となり、目標値を下回った。

【総合評価結果】

『 C 』

【評価理由】

市民病院では、回復期リハビリテーション病棟が新型コロナウイルス感染症患者の対応病床に転換をした影響で、本来の運営ができなかったことが影響し、更に3病院ともに院内感染が発生したことにより目標を下回ったことはやむを得ないと感じる。今後は回復期リハビリテーション病棟の再開に期待し、3病院間の連携強化等による病床稼働率の向上に努めてほしいことから、総合評価を『C』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・さらなる対策がない。
- ・新型コロナウイルス感染症の院内感染による影響がどの程度で、それ以外の数値はどのようなかが判らないので判断が難しいが、市民病院の一般病床稼働率84%は努力の賜物だと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、改善することに期待したい。
- ・3病院とも目標を下回ったが、新型コロナウイルス感染症対応の病床転換等によるもので、やむを得ないと感じる。
- ・今後は回復期リハビリテーション病棟の活用や3病院の機能に応じた連携強化を図り、病床稼働率の向上に努めてほしい。
- ・コロナ禍にて患者の受入れ制限等により大変苦労されたことと思う。市内では入院できる病床は登米市立病院の3つしか無く、住民の拠り所となっていることを意識していただき、救急患者や紹介患者のより積極的な受入れをお願いしたい。
- ・新型コロナウイルス感染症発災対応等で計画運用ができなかったことは、致し方ないことと考える。コロナ情勢が落ち着けば計画的な数値に近づけられると考えられる。
- ・すべての病院で新型コロナウイルス感染症の院内感染が発生した影響等により、どの病院も目標値に達せず、前年度実績も下回るなど、厳しい状況であったと考えられる。
- ・回復期リハビリテーション病棟の再開、開業医や介護施設、3病院の機能分担等による稼働率の向上に向け、引き続き積極的な取組をお願いしたい。

2 1日平均患者数 ア 入院

●目標に対する評価

(単位：人)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	316	325	325	325	325	80.6	C
	290	281	276	262	-	-	-		
登米市民病院	-	-	172	180	180	180	180	82.2	C
	163	155	154	148	-	-	-		
米谷病院	-	-	68	68	68	68	68	79.4	C
	58	60	56	54	-	-	-		
豊里病院	-	-	77	77	77	77	77	79.2	C
	69	67	67	61	-	-	-		

●分析

入院は、事業全体で前年度より14人減の262人で、目標値を下回った。

【市民病院】

整形外科医師が異動により、常勤3名から常勤2名、会計年度任用職員1名の体制となった影響や、8月と11月にコロナの院内感染が発生し、患者の受入りに制限が生じた影響等のほか、年間を通じて回復期リハビリテーション病棟（30床）を新型コロナウイルス感染症患者の対応病床とし、本来の運用ができなかったため、前年度より6人減の148人となり目標値を下回った。（参考：新入院患者数は前年度より209人減の2,918人）

【米谷病院】

11月と3月にコロナの院内感染が発生し、患者の受入りに制限が生じた影響等で、前年度より2人減の54人となり、目標値を下回った。

【豊里病院】

12月にコロナの院内感染が発生し、患者の受入りに制限が生じた影響等で、前年度より6人減の61人となり、目標値を下回った。

【総合評価結果】

『 C 』

【評価理由】

病床稼働率と同様に新型コロナウイルス感染症患者対応による病床転換や3病院ともに院内感染が発生したことが影響し、目標を下回ったことはやむを得ないと感じる。市民病院では整形外科医師の異動等の影響もあるが、今後は回復期リハビリテーション病棟の再開や関係医療機関との連携強化により、入院患者の確保に努めてほしいことから、総合評価を『C』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、低下はやむを得なかったと思う。
- ・市内医療機関や近隣の高度医療機関と連携を図りながら患者確保に取り組んでほしい。
- ・今後の回復期リハビリテーション病棟再開による患者増加に期待する。
- ・新型コロナウイルス感染症対応での受入れ制限等で苦慮されたことと思う。今後の地域包括ケアシステム構築の重要な役割を、登米市民病院は期待されていると思う。レスパイト入院も、在宅療養者のために積極的に受入れてもらえたらと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症発災対応等で計画運用ができなかったことは、仕方ないと考える。コロナ情勢が落ち着けば計画的な数値に近づけると考える。
- ・回復期リハビリテーション病棟の再開、開業医や介護施設、3病院の機能分担等による稼働率の向上に向け、引き続き積極的な取組をお願いしたい。

3 1日平均患者数 イ 外来

●目標に対する評価

(単位：人)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	802	798	794	790	786	93.9	B
	867	758	766	749	-	-	-		
登米市民病院	-	-	365	363	361	359	357	100.8	A
	350	343	375	366	-	-	-		
米谷病院	-	-	99	98	97	96	95	100.0	B
	112	95	97	98	-	-	-		
豊里病院	-	-	200	199	198	197	196	84.4	C
	203	185	174	168	-	-	-		
上沼診療所	-	-	19	19	19	19	19	100.0	B
	21	19	19	19	-	-	-		
訪問看護 ステーション	-	-	119	119	119	119	119	82.4	C
	123	110	100	98	-	-	-		

●分析

外来は、事業全体で前年度より17人減の749人で、目標値を下回った。

【市民病院】

新型コロナウイルス感染症に係る保健所からのドライブスルー検査等の依頼件数が減少した影響等で、前年度より9人減の366人となったが、泌尿器科において常勤医師が育児休業から復職するなど、患者数の増加要因もあり、目標値を上回った。

【米谷病院】

小児科及び内科において、新型コロナウイルス感染症疑い患者の受診等が増加した影響で、前年度より1人増加の98人となり、目標値を達成した。

【豊里病院】

皮膚科の新患受付時間を短縮（火～金 8:30～10:30、午後再診予約のみ）した影響や、整形外科医師の体調不良による休診の影響等で、前年度より6人減の168人となり、目標値を下回った。

【上沼診療所】

前年度同数の19人となり、目標値を達成した。

【訪問看護】

訪問リハビリにおいて、長期休暇のスタッフが復職したことにより利用者が増加したが、訪問看護において、利用者の施設入所や死亡等の影響により減少したため、前年度より2人減の98人となり、目標値を下回った。

なお、効率的な運営体制を構築するため、令和4年度からスタッフ1名を減員し、サテライトの1つを集約（豊里本部、米谷・豊里・よねやまサテライト体制 ⇒ 豊里本部、米谷・豊里サテライト体制）した。

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

新型コロナウイルス感染症を起因とする外来患者の変動はやむを得ないと感じるが、5類感染症に移行後は感染症関連の患者数減少が見込まれるため、今後は関係医療機関等との連携強化や市民病院において対応可能な救急患者の受入れに積極的に努めてほしいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・外来患者は新型コロナウイルス感染症の影響も少なくほぼ現状維持ということは、外来診療は努力していると思う。上沼診療所は外来診療だけでなく、訪問診療も行っているので、その実績も記載してほしい。
- ・外来患者数は、紹介率との関係でも「減少」を良しとするのか「増加」を良しとするのかがよく分からない。診療科目によっても違うと思うが、外来と入院は関連があると思うのでもう少し精査が必要と思う。
- ・今後、コロナは理由にならないので、市民が受診したいと思う病院づくりや雰囲気づくりをして、患者数を増やしていただきたい。
- ・少子高齢化、人口減少という社会情勢の変化で、患者数の減少も考えられる。地域開業医や高度医療機関、介護施設と連携を図り紹介患者の確保に努めてほしい。
- ・一般の方に、どの病院がどの診療科が得意なのか、あまり認知されていないような感じがする。すべての病院が総合病院なのか、病院によって診てもらえない診療科があるか分からないので、他の開業医や他地域の病院へ行くのだと思う。
- ・医師不足が根底にある事と思う。できることから取り組むとすれば、地域の開業医等との連携や紹介者の増加があげられる。例えば、整形外科の地域の開業医は限られ、急性の増悪の場合（腰痛、膝痛の悪化等）、一旦開業医の先生に診察し紹介状を持参しないと診察ができないのは住民にとってハードルが高い状況にある。その際は救急車を呼ぶことを勧めることで良いのか迷う。打開策の検討をお願いしたい。
- ・訪問看護の目標数値が下回っているが、多死社会に向かい、また、医療依存度の高い在宅療養者が今後住み慣れた地域で生活を継続するために欠かせない資源なので、運営体制を確保してほしい。
- ・市民病院においては、ドライブスルー検査等の件数が減少する中であっても、目標値を上回る結果となり、努力が認められる。他の病院や診療所、訪問看護ステーションについては、コロナ後の診療体制の見直しや、開業医や施設等との連携強化等により、外来患者数の確保に引き続き努めてもらいたい。

4 平均診療単価 ア 入院

●目標に対する評価

(単位：円)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	31,105	31,238	31,238	31,238	31,238	109.3	A
	28,828	31,860	33,246	34,138	-	-	-		
登米市民病院	-	-	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	113.2	A
	34,087	37,878	39,697	40,751	-	-	-		
米谷病院	-	-	24,500	24,500	24,500	24,500	24,500	100.6	A
	20,647	23,777	24,543	25,128	-	-	-		
豊里病院	-	-	26,000	26,000	26,000	26,000	26,000	100.2	A
	23,276	25,194	25,663	26,053	-	-	-		

●分析

入院平均診療単価は、事業全体で前年度より 892 円増の 34,138 円で、目標値を上回った。

【市民病院】

感染対策に関する連携強化を図り、5月から診療報酬における感染対策向上加算1を取得したほか、新型コロナウイルス感染症患者の増加に伴い二類感染症患者入院診療加算の算定増や、10月から看護職員処遇改善評価料の算定を開始した効果等で、前年度より 1,054 円増の 40,751 円となり、目標値を上回った。

【米谷病院】

6月から地域包括ケア病棟の看護補助者配置加算を取得した効果等で、前年度より 585 円増の 25,128 円となり、目標値を上回った。

【豊里病院】

地域包括ケア病棟で長期間入院（60日超え）する患者が減少し、地域包括ケア病棟入院料1の算定基準を満たす患者が増加した影響等で、前年度より 390 円増の 26,053 円となり、目標値を上回った。

【総合評価結果】

『 A 』

【評価理由】

病院事業すべての施設において目標を上回っている。診療報酬改定により、施設基準等の要件が厳しくなっている状況の中、改定に対応しながら算定可能な加算取得や算定増額、施設基準の維持に十分取り組んでいると感じることから、総合評価を『A』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・ 厳しい診療報酬の中で加算処置を算定しているのは評価に値する。
- ・ 全ての病院で目標を上回り、市民病院は類似平均を大きく上回ったのは素晴らしい。
- ・ 診療報酬における施設基準・加算の取得に努めている。
- ・ 今後も施設基準を維持しながら、加算取得に努めてほしい。
- ・ 平均単価が上がったのは良いことだと思う。
- ・ 同じ病気での入院患者の診療単価はどの病院でも同じなのか、他地域の病院でも同じ単価なのか、登米市内の病院に入院することで、もし金額が抑えられ患者負担が少なくなれば、それを周知できればと思った。
- ・ 様々な加算を取得するため、努力した成果だと思った。
- ・ 施設基準要件等が厳しくなっているようだが、加算はやっている事への評価の対価にて、今後も積極的に加算取得するための配置を整えて実績を上げてほしい。
- ・ 各病院ともに、それぞれの機能に応じた診療報酬上の加算等の取得により、入院患者が減少する中であっても、平均診療単価の実績が目標値を上回っており、その取組を高く評価する。
- ・ 今後、国の医療費抑制に向けた診療報酬の改定等が、ますます進むことが予想されることから、施設基準の維持や新たな加算等の取得等の取組を継続願う。

5 平均診療単価 イ 外来

●目標に対する評価

(単位：円)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	8,973	8,974	8,974	8,975	8,975	112.4	A
	8,763	9,245	9,776	10,085	-	-	-		
登米市民病院	-	-	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	111.9	A
	9,465	11,726	12,492	12,864	-	-	-		
米谷病院	-	-	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	113.6	A
	6,581	6,512	6,621	7,496	-	-	-		
豊里病院	-	-	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	109.6	A
	6,033	6,030	6,454	6,467	-	-	-		
上沼診療所	-	-	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	105.1	A
	9,974	9,912	10,182	10,512	-	-	-		
訪問看護 ステーション	-	-	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	102.3	A
	8,280	8,171	8,364	8,392	-	-	-		

●分析

外来平均診療単価は、事業全体で前年度より 309 円増の 10,085 円で、目標値を上回った。

【市民病院】

抗がん剤注射料の増加や、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いによる増加（院内トリアージ実施料、救急医療管理加算）等の影響により、前年度より 372 円増の 12,864 円で、目標値を上回った。

【米谷病院】

感染症検査等の増加により、前年度より 875 円増の 7,496 円で、目標値を上回った。

【豊里病院】

歯科診療に係る収益の増加等で、前年度より 13 円増の 6,467 円で、目標値を上回った。

【上沼診療所】

在宅訪問診療件数の増加等で、前年度より 330 円増の 10,512 円で、目標値を上回った。

【訪問看護】

終末期の利用者に係るターミナルケア加算の算定増等で、前年度より 28 円増の 8,392 円となり、目標値を上回った。

【総合評価結果】

『 A 』

【評価理由】

病院事業すべての施設において目標を上回っている。今後も積極的に算定可能な加算取得に努め、診療単価の増額に努めてもらいたいことから、総合評価を『A』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・ 厳しい診療報酬の中で、加算処置を算定しているのは評価に値する。
- ・ 全ての病院で目標を上回り、市民病院は類似平均を大きく上回ったのは素晴らしいと思う。
- ・ 引き続き目標達成に努めていただきたい。
- ・ 今後は感染症に係る診療報酬の減少が見込まれるので、救急患者の受入れや検査患者（内視鏡・MRIも含む）の受入れを積極的に行い、診療単価の維持に努めてほしい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応で大変な苦労や努力した結果の数値と思う。今後も更なる救急患者の受入れや必要な検査の実施により、登米市民の健康に異変があった際に、安心して診てくれる病院でいてほしいと思う。
- ・ 施設基準要件等が厳しくなっているようだが、加算はやっている事への評価の対価であり、今後も積極的に加算取得するための配置を整えて実績を上げてほしい。
- ・ すべての病院において目標値を上回っており、その取組を高く評価する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、感染症に係る診療報酬の減少が見込まれるので、これまで以上に各病院や診療所ごとに適用できる加算や検査を積極的に取り入れ、診療単価の維持に努めてもらいたい。

6 平均在院日数（急性期一般病床のみ）

（単位：日）

●目標に対する評価

施設	目標（上段）							達成率 （%）	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	17.0	16.5	16.5	16.0	16.0	87.8	B
	17.8	16.8	18.6	18.8	-	-	-		

●分析

急性期病床の平均在院日数は、前年度に引き続き、当年度においても回復期リハビリテーション病棟（平均在院日数の算定から除外される回復期の病床、30床）をコロナ対応病床としたことで、急性期を脱した患者を回復期リハビリテーション病棟へ転出させることができなかつたほか、新型コロナウイルス感染症の影響で、3病院における機能分担の取組である米谷病院（回復期、慢性期病床）等への転院にも制限が生じたことで、患者の在院日数が長期化したため、目標値より2.3日長い18.8日となった。

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

回復期リハビリテーション病棟を新型コロナウイルス感染症患者の対応病床としたことで、急性期を脱した患者を回復期リハビリテーション病棟へ転出させることができなかつたほか、新型コロナウイルス感染症の影響で米谷病院等への転院にも制限が生じ、在院日数が長期化したことについてはやむを得ないと感じる。今後は感染症の発生状況を考慮しながら回復期リハビリテーション病棟の再開に期待するとともに、3病院の更なる連携強化に努めてほしいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・高齢患者が増加する中での在院日数は厳しいと思う。回復期リハビリテーション病棟への転出により改善を期待する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響なのでやむを得ないと思う。
- ・コロナが5類になり、以前のような体制でリハビリテーション等の再開と3病院の連携により目標を達成していただきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対応のための病床確保や転院制限の結果、在院日数が長期化となった。
- ・今後は回復期リハビリテーション病棟の活用や3病院の機能分担と連携強化を図り、平均在院日数の短縮に努めてほしい。
- ・急性期の一般病床の患者の入院期間が長くなると病床稼働率が高くなるかと思うが、平均在院日数を減らした方が得策なのかが判断できなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による結果だと思う。急性期を脱した方の行き先が回復期リハビリテーション病棟・慢性期病床・介護系施設・在宅の選択については、家庭状況が個々に異なると思う。
- ・新型コロナウイルス感染症発災対応等で計画運用ができなかつた事は、致し方ないことと考える。コロナ情勢が落ち着けば計画的な数値に近づけられると考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染症対応のため、回復期リハビリテーション病棟を新型コロナウイルス感染症患者の対応病床にしたことから、目標値の未達成はやむを得ないものと認められる。

7 経常収支比率

(単位：%)

●目標に対する評価

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	97.9	98.9	98.9	98.7	99.5	105.9	A
	92.5	97.9	107.6	104.7	-	-	-		
登米市民病院	-	-	100.9	102.3	101.9	101.8	103.1	113.8	A
	90.7	105.2	121.1	116.4	-	-	-		
米谷病院	-	-	89.2	90.5	90.7	90.6	90.1	93.3	B
	85.4	81.7	85.6	84.4	-	-	-		
豊里病院	-	-	105.2	104.5	104.8	104.5	105.1	94.0	B
	96.1	94.8	100.4	98.2	-	-	-		

●分析

経常収益は7,885百万円で、外来収益が感染症対応に係る診療報酬の増加や、高額な薬剤投与の増加等で、前年度より増加した一方で、入院収益が医師の異動や新型コロナウイルス感染症のクラスター発生等で減少したほか、退職給付引当金戻入や補助金等が減少したため、前年度より280百万円減少したが、コロナ対応に係る補助金655百万円を計上した影響等により、目標値を達成（目標値比較+359百万円）した。

経常費用は7,533百万円で、電気料等の価格高騰や感染症に係る廃棄物処理委託料等の経費が増加した一方で、退職手当組合負担率の減少や給与改定に伴う期末手当の減少等により給与費が減少したため、前年度より71百万円減少（目標値比較△73百万円）した。

この結果、前年度より223百万円の減益となったが、経常利益は352百万円の黒字（目標値比較+432百万円）となり、経常収支比率は、目標値より5.8ポイント増の104.7%となった。

【総合評価結果】

『 A 』

【評価理由】

経常収支比率は新型コロナウイルス感染症対応に係る補助金の計上で目標値を達成しているが、今後は5類感染症となり補助金の減額の影響が懸念されることから、3病院間や関係医療機関等との連携強化により入院・外来収益の確保に努めるとともに、近年の物価高騰への対応や更なる経費抑制を図り、目標達成に向けて取り組んでほしいことから、総合評価を『A』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になることで今後の影響が心配される。
- ・100%を超える実績は素晴らしいと思うが、新型コロナウイルス感染症対応の補助金の影響も大きい。今年の10月以降の状況が心配されるがしっかり対応してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症の補助金等もあり目標達成した。物価高騰は致し方ないが、収益を増やす工夫や患者の確保（質の良い医療体制）に努めていただきたい。
- ・目標達成に向け十分に取り組み、目標を大きく上回っており高く評価する。
- ・今後は患者数の確保に向けた取組を継続しながら、施設基準・加算維持による収益確保に努めてほしい。
- ・収益が黒字になっていることは喜ばしいが、今後、新型コロナウイルス感染症の5類移行により収益が減少することが予想されるので、予防医療や検査で収益を増やせるようにできればと思った。
- ・感染症対策や高度な医療の提供等、様々な分野での努力によつての数値と思う。
- ・感染対策による診療報酬は、5類へ移行後は期待できないと考えられる。今後も電気代をはじめ物価高騰は当面経営圧迫の大きな要因になっていくと考えられる。
- ・外来収益が増加した一方、入院収益が減少する中であつて、目標値を上回ることができたことを評価する。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行による補助金等の減額の影響が懸念されることから、外来・入院収益の増加と更なる経常費用の削減に向けた取組強化に努めてもらいたい。

8 医業収支比率

●目標に対する評価

(単位：%)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	85.1	85.9	85.1	85.2	85.9	96.0	B
	82.2	81.1	82.3	82.5	-	-	-		
登米市民病院	-	-	89.6	91.2	90.9	90.9	92.3	100.7	A
	83.8	88.0	91.4	91.8	-	-	-		
米谷病院	-	-	72.8	73.8	74.2	76.8	78.1	87.0	B
	66.7	64.4	62.9	64.2	-	-	-		
豊里病院	-	-	92.4	92.0	89.9	89.9	90.7	87.8	B
	82.9	81.9	84.5	80.8	-	-	-		

●分析

医業収益は5,982百万円で、外来収益においては、感染症対応に係る診療報酬の増加や高額な薬剤投与の増加等で、前年度より24百万円増加（目標値比較+95百万円）した一方で、入院収益においては、医師の異動の影響や3病院における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による患者数の減少で、前年度より82百万円減少（目標値比較△436百万円）したほか、年間を通じて市民病院の回復期リハビリテーション病棟（30床）を新型コロナウイルス感染症患者の対応病床とし、本来の運用ができなかった影響等もあり、医業収益の目標値に対しては306百万円達しなかった。

医業費用は7,249百万円で、電気料等の価格高騰による影響や、感染症対応に係る廃棄物処理委託料等の経費が増加した一方で、退職手当組合負担率の減少や、給与改定に伴う期末手当の減少等で給与費が減少したため、前年度より71百万円減少（目標値比較△73百万円）した。

この結果、医業損失が1,266百万円となり、前年度より30百万円改善したが、目標値に対しては233百万円達しなかったため、医業収支比率は、目標値より3.4ポイント減の82.5%となった。

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

新型コロナウイルス感染症対応による病床転換や院内感染による患者数の減少等の影響を受けながらも、市民病院が目標を達成できている。今後も患者数の確保及び診療報酬における施設基準・加算維持による収益確保に努め、病院事業全体において目標達成に向けて取り組んでほしいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・今期の収支はそれほどでもなかったが、次期の収支は諸物価高騰の影響で収支の悪化が懸念される。
- ・本来業務であり 100%以上が望ましいと思うが、米谷病院は減価償却費を除いても収益を上回る費用が発生しているので詳しい分析が必要と思う。
- ・コロナ後の体制強化、地域との強い連携を図り、経費の抑制と同時に目標達成に努めていただきたい。
- ・目標達成できなかったのは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、やむを得ない。
- ・今後は患者数の確保及び診療単価の増額等、収益確保に向けて取り組んでほしい。
- ・さらなる効率化と経費削減方法がないかを検討されたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策や医師不足でご苦労された結果と思う。次年度の診療報酬・介護報酬・障害福祉等サービス報酬の同時改定があるため、更なる連携や加算取得を進めてほしいと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による入院収益の減少による影響によるものであり、やむを得ないと認められる。
- ・引き続き医業損失の改善に向けて、診療報酬施設基準の維持等により収益の確保と医業費用の削減に努めてもらいたい。

9 職員給与費対医業収益比率

(単位：%)

●目標に対する評価

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	59.2	58.1	57.9	57.9	58.0	96.2	B
	62.8	61.5	61.4	60.4	-	-	-		
登米市民病院	-	-	55.8	54.6	54.4	54.5	54.6	100.7	A
	59.8	56.6	55.5	54.2	-	-	-		
米谷病院	-	-	57.0	55.3	55.0	54.5	54.7	87.9	B
	73.5	64.4	66.9	62.9	-	-	-		
豊里病院	-	-	58.4	58.3	58.3	58.5	57.9	88.3	B
	63.4	63.7	62.9	66.0	-	-	-		

●分析

病院事業全体で、給与費は 3,613 百万円となり計画値と比較し 38 百万円の減、医業収益は 5,982 百万円となり計画値と比較し 306 百万円の減となった。病院ごとでは市民病院の給与費は 2,155 百万円で計画値と比較し 30 百万円の減、医業収益は 3,975 百万円で計画値と比較し 28 百万円の減。米谷病院の給与費は 505 百万円で 23 百万円の増、医業収益は 802 百万円で 68 百万円の減。豊里病院の給与費は 613 百万円で 28 百万円の減、医業収益は 929 百万円で 169 百万円の減となった。

病院事業全体でみると、医業収益では、新型コロナウイルスの影響で入院患者数が減少したことから計画額を下回った。また、常勤職員数では、計画値 451 人に対して令和 4 年度末で 438 人となり 13 人少なかったことから給与費も減少している。当年度の目標達成比率は、ほぼ前年度と同様であるが、最終年度の目標値と比較すると前年度より改善している。

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

職員給与費対医業収益比率は、医業収益を上げていくことで改善に繋がるため、更なる収益向上に努めてもらうとともに、入院患者数の増加と新たな加算取得により収益の増加に努めてもらいたいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・施設の適正配置を行い、収支改善を図ることで改善に繋げてほしい。
- ・医業収益と連動するので、規模に応じた職員体制を固めたうえで、医業収益をいかに上げるかということなのだと思う。
- ・職員数の減少により患者への対応は十分足りているのか。他のスタッフへの影響はあるのか。
- ・病院事業全体では目標値を下回ったが、市民病院の目標達成は取組の成果が表れていると考える。
- ・今後は医療提供体制に合った適正配置に努めるとともに、医業収益の向上に向けた努力を期待する。
- ・さらなる効率化と経費削減方法を検討されたい。
- ・効率的な職員配置と費用の抑制等に努力していることと思う。民間の会社では収益＝給料に直結する。市民病院においても収益が上がれば手当が上がるなど、職員間で収益を意識していくことも大切と感じている。
- ・給与の減が報告されているが、無理のかからない範囲での人員配置に心掛けてほしい。
- ・全体的に給与費は減少しているが、医業収益の減額により目標到達には至らなかったことから、引き続き、各病院における経営形態の方向性を検討し、定員管理や的確な職員配置等の費用の抑制に努めてもらいたい。
- ・入院患者の増加や新たな加算の取得等、収益の増加にも引き続き努めてもらいたい。

10 材料費対医業収益比率

●目標に対する評価

(単位：%)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
病院事業全体	-	-	10.7	10.9	10.8	10.8	10.8	96.5	B
	11.3	10.9	10.7	11.3	-	-	-		
登米市民病院	-	-	12.4	12.4	12.4	12.4	12.4	96.9	B
	12.8	12.0	12.1	12.8	-	-	-		
米谷病院	-	-	8.6	8.6	8.6	8.5	8.5	89.6	B
	10.6	9.4	9.0	9.6	-	-	-		
豊里病院	-	-	8.9	9.9	9.8	9.8	9.8	107.6	A
	10.7	10.0	9.0	9.2	-	-	-		

●分析

令和4年度の材料費は、全体の99%を占める薬剤費と診療材料費のうち、診療材料費では約11百万円の減となったものの、薬剤費では注射薬や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う検査用薬品の増により、前年度と比較して約41百万円の増となった。その一方で、医業収益では、医師の異動による影響や院内クラスターの発生による影響等により入院収益が約82百万円減となるなど、前年度と比較して約41百万円の減となり、これまで増加傾向にあった材料費1円あたりの医業収益も、前年度と比較して約0.49円の減となったものである。

【総合評価結果】

『 B 』

【評価理由】

材料費の多くを占める薬剤費は、新型コロナウイルス感染症の検査用薬品費が前年度と比較して増加しており、医業収益も院内感染等の影響を受けて入院収益が前年度と比較して減少したことから、目標達成できなかつたのはやむを得ないと感じる。

今後は、引き続き材料費の削減に努めてもらうとともに、物価高騰対策にも取り組んでもらいたいことから、総合評価を『B』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・材料の一括購入等の工夫を重ね、収支改善に取り組んでほしい。薬品・材料・器具機材の管理を徹底し、廃棄防止の取組を進めてほしい。
- ・医業収益と連動するが、ある程度適正な水準だと思う。
- ・コロナに振り回されない体制で、どこまで目標値に近づけるか、そしてジェネリック医薬品の使用増加でどこまで目標値に近づけるか期待は大きい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標値に達しなかつた。
- ・今後は、ジェネリック医薬品の使用の向上、医薬品の購入については一括での入札を行い、価格低減に向けた取組を期待する。
- ・さらなる効率化と経費削減方法を検討されたい。
- ・材料費の削減に努力された結果と思う。物価上昇もあり苦慮されていると思うが、今後も取組の継続に努めてもらいたい。
- ・当面感染対策に係る経費をはじめ物価高騰の影響はやむを得ないと考えられる。課題と方向性に記述された取組を実践してほしい。
- ・高額な注射薬や新型コロナウイルス感染症の検査薬品の増加により、材料費が増加しているが、おおむね目標値に到達していると評価する。
- ・引き続き、集約による一括入札の実施等、医薬品の価格低減に向けて積極的に取り組んでもらいたい。

11 後発医薬品の使用割合

●目標に対する評価

(単位：%)

施設	目標（上段）							達成率 (%)	評価
	実績（下段）								
	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
登米市民病院	-	-	80	80	85	85	85	113.8	A
	63	80	89	91	-	-	-		
米谷病院	-	-	80	80	85	85	85	110.0	A
	65	71	81	88	-	-	-		
豊里病院	-	-	80	80	85	85	85	107.5	A
	66	60	77	86	-	-	-		

●分析

令和4年度の年間平均では、市民病院 91%（目標値比較+11%）、米谷病院 88%（目標値比較+8%）、豊里病院 86%（目標値比較+6%）であった。各病院とも後発医薬品使用割合は向上しており、目標値を上回った。（※小数点以下を四捨五入により表示）

【総合評価結果】

『 A 』

【評価理由】

3病院ともに後発医薬品の使用割合は向上しており目標値を上回った。今後も3病院において情報共有を図り、更なる後発医薬品の使用割合の向上に努めてほしいことから、総合評価を『A』とする。

【評価に当たっての意見、指摘等】

- ・今後とも継続した取組を期待する。
- ・85%は最低限の目標であり、可能であれば90%を目指す必要があると思われる。
- ・全体で90%という水準は高いと思う。このままの水準を維持していただきたい。
- ・引き続き目標達成に努めていただきたい。
- ・今後も関係部門と情報共有を図りながら後発医薬品の使用割合の向上に努めてほしい。
- ・積極的な経費削減を評価する。
- ・後発医薬品の使用は住民の負担軽減にも繋がるのが期待できるので、丁寧な説明と合意により今後も勧めてほしい。
- ・実績効果をあげているようなので、今後も更なる努力をお願いしたい。
- ・後発医薬品の使用割合は、年々増加して目標値を上回っており、高く評価する。
- ・診療報酬の改定にかかる品目変更等への対応のため、引き続き関係部門との情報共有等に努めてもらいたい。

第3 令和4年度登米市病院事業業務実績への総合的な意見

- 医療機能の指標に関してすべての対策案が抽象的であり、目標達成のための具体案の作成が必要である。例えば常勤医師を増員するためには、どこから(大学や病院等)何名、何の専門医をリクルートするか。紹介に関しては、地域医療連携室の増員、内科や外科のホットライン構築、ネット予約システムの構築等。初期研修の受入れについては、研修機関として現在不足している人材、医療機器、教育体制等の具体的な提示が必要である。
- 目標数値の算出根拠に無理がないか、妥当かがよく分からないのでその記述が必要かと思う。会議の際に提出された資料で同種同規模の病院の平均値が示されたが、それらを見ると病院事業は大変頑張っていると思う。職員の努力が単なる数値だけでなく、私たちに分かりやすく理解できるような工夫が必要と思う。
- 受診難民の問題を行政と協力して対応し、外来患者数の維持を目指してほしい。
- オンライン診療を推進し、必要とする人達のニーズに合わせた環境づくりを考えてほしい。
- 働く世代の減少にともなう医療人の減少問題を長期的な視点で適切な職員数を計画してほしい。
- 限られた医療資源の中で、日々地域医療の確保に努力している関係者に心から敬意を表す。新型コロナへの対応や救急医療への果敢な取組等、市民の信頼を得る取組にも配慮しつつ経営改善の成果が現れてきたことは、医療従事者はじめすべてのスタッフ一丸となった取組の成果であると高く評価する。今後とも、関係医療機関や市の健康管理部署との連携強化・充実を図り、更なる医業収益向上のために必要な取組を、明確な目標として掲げ取り組んでもらいたいと思う。また、令和5年度から3人の研修医の受入れが始まるが、市民病院も次の段階に上がっていくことが大いに期待され、改めて、医療圏内での機能分担と市民病院の役割をしっかりと果たしていくことが望まれる。そのようなことも含め、現在、市の広報誌に病院事業のページがあるので、市民へのPRや理解を深めていただくよう努めてもらいたい。
- 新型コロナウイルス感染症に振り回され、思うように進まなかった問題もあるが、コロナによって多少の潤いを戻した財政問題。5類になったことにより今まで以上に問題解決に取り組み、病院改革と再編に努力してもらいたい。市民団体等を利用して開かれた病院にし、市民に必要とされ、信頼される病院になってもらいたい。
- 新型コロナウイルス感染症への対応や救急医療への果敢な取組等が市民の信頼回復に繋がっていると思う。登米市の地域医療の拡充を図るのは非常に困難な状況と考える。しかしながら市民が病院に望むこと、そして病院のできることを考え、計画・実行していくことが重要と思う。地域の開業医との顔の見える関係、近隣の高度医療機関との連携強化を図りながら、市立3病院が各病院の役割を十分に果たし、地域住民から信頼され、愛される病院を目指してほしい。

- 個人的にあまり市内の病院を利用することが少なかったため現状が分からず、データを見ただけでは分からない部分が多くあった。収支が黒字なのはそれだけ期待されている証拠なのかと思った。医師不足はどの地域でも同じだと思うが、医師が少ないことは病院への安心感と直結することだと思うので、更なる対策が必要なのかと感じた。幼少期から医師を育てる環境づくりや、研修医を多く呼び込み、市内病院へ定着させる施策ができればと思っている。登米市病院内へ開業医の病院デパートのように、施設を貸与するなど、何らかの開業医になろうとする医師が、登米市で優位に医師として活躍できる方法を医師と地域住民が一緒になって考え、支援できればと思う。緊急を要する高度医療は現在の医師不足や高度な医療施設がない登米市民病院では難しいが、長期的入院や通院を必要とする回復医療やリハビリ、検査等について地域の人にメリットを感じてもらえれば、患者数をもっと伸ばすことはそれほど難しいことではないように感じる。多くの取組や検証をしながら病院改革を進めていることは良く理解できたので、一般の人にも分かるように、そのメリットや病院が抱える問題を認知してもらえるような機会が多くあればと思う。
- 新型コロナウイルス感染症対策等で、大変な苦労や努力があつての成果が現れているのだと思う。日頃から介護との連携において、入院・退院時から医療ソーシャルワーカーと連絡が取れており、病院でのリモートや対面での面談の段取りをしてもらうなど、とても有り難く感じている。中長期計画においては、医療の機能分化とネットワーク化や、地域医療構想を踏まえた役割として住民が求めている総合診療に対するスキルアップも含まれており、様々な病気を抱える高齢者支援に携わる者としては、とても期待するところである。登米市において、医師を始めとし、今後は医療も介護も慢性的な人手不足が懸念される。また地域においても、単身者・高齢世帯の増加や、65才以上の親と成人した子供の二人世帯、身寄りのない方の増加もあり、在宅での介護力が低下している状況である。中長期計画の中では、平均在院日数の短縮が挙げられている。このことに関しては今後も苦慮されると思う。今後もぜひ、ケアマネジャーに早めに連絡をもらい、退院に向けての課題を一緒に考えて行きたいと思う。本人・家族を主体に置きつつ、医療と介護・福祉や地域等が連携して、その方の暮らしを支える「地域包括ケアシステム」の構築を私たちも進めて行きたいと思う。
- 登米市は人口に対して介護事業所が多く、多死社会の中で特に入所系施設の看取りの役割は大きい。看取りは医療との連携が欠かせず、実践したくても医療の確保ができず、また一部の在宅医療機関に負担が掛かっている現状がある。ぜひ福祉と医療の連携が特に図れた包括圏域構築に期待したい。
- 新型コロナウイルス感染症に関連した事項としては、早期から施設へ出向いての感染指導、入院病床の確保等、施設運営している現場にとっては、大変心強く感謝している。今後も、嘱託医を含め、バックアップ病院として連携を深めていくための具体的な仕組づくりが必要かと思われる。
- 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の陽性者数が、感染力が強いオミクロン株の影響で過去最大となり、高齢者を中心に入院加療が必要な患者も増大したが、登米市

民病院では、妊婦等を除く登米圏域の入院患者のほぼすべてを受入れたほか、他圏域の患者の受入れも行うなど、コロナ禍においても地域の基幹病院としての役割を十分に発揮してもらった。陽性者数の激増により、市民病院を含む3病院すべてで、クラスターが発生するなど、経営環境は非常に厳しい状況となったが、機能分担を更に進めるとともに、市民病院における救急搬送患者の受入れを積極的に行った結果、昨年度決算に続いて経常損益、純損益ともに黒字となったことは、高く評価する。令和5年度から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、通常診療における収益の確保が大きな課題となることから、今後も、3病院の機能分担の推進のほか、地域の医療機関や介護施設、近隣の病院等との連携を更に強化するようお願いしたい。また、登米圏域に必要な専門的医療や、高度医療の提供のためには、医師確保が最重要課題となるので、初期研修医の受入れを含め、魅力ある病院づくりについて、関係者の協力を積極的に受けながら推進するようお願いしたい。

登米市病院事業中長期計画に係る外部評価実施要領

1 外部評価の目的

地域において必要とされる医療の確保を図る上で、登米市病院事業に求められる役割を果たしているか否かといった観点に立ちながら、登米市病院事業中長期計画がどの程度進捗しているのか、目標が達成できなかった場合の原因は何か、今後の改革をどう進めるべきかなどについて、意見を述べることを目的とします。

2 評価実施主体

登米市病院等運営協議会で、外部評価を実施します。

3 評価対象

登米市病院事業中長期計画に掲載した「主要方策（主要事業）と経営指標」及び「収支計画及び数値目標」について外部評価を行います。

また、病院運営についての総合的な意見を述べます。

- (1) 登米市病院事業中長期計画「主要方策（主要事業）と経営指標」
- (2) 登米市病院事業中長期計画「収支計画及び数値目標」
- (3) 登米市病院事業への総合的な意見
 - ・期待される地域医療の役割を果たしているか、病院改革プランに対する総合的な意見 など

4 評価結果の活用、公表

評価結果や外部評価委員会の意見を十分に精査し、経営改善に向けた対策を講じることとします。また、評価結果については、登米市医療局のホームページで公表します。

登米市立病院等運営協議会委員名簿

【順不同、敬称略】

No.	氏名	推薦依頼団体等	備考
1	佐藤 衛	登米市医師会	
2	布施 孝尚	登米市歯科医師会	
3	光澤 純一	登米市薬剤師会	
4	小野寺良雄	登米市国民健康保険運営協議会	会長
5	千葉 博行	登米市社会福祉協議会	
6	三浦 祐子	登米市の医療を考える会	
7	高橋 直子	宮城県看護協会登米支部	副会長
8	加藤 亮	宮城県経営者協会登米支部	
9	久光知香子	宮城県ケアマネジャー協会登米支部	
10	小野寺富美子	登米市介護保険事業者連絡協議会	
11	菅原 英治	宮城県東部保健福祉事務所登米地域事務所	

任期：令和5年7月28日～令和7年7月27日

